二つの“関係”

Harmonious Lighting Design and Collaboration

松下電工(株) 北村 寛 Hiroshi Kitamura (第2回照明デザイン奨励賞受賞者)

◀キーワード：照明デザイン、関係、パブリックスペース

1. はじめに

このたび、照明デザイン奨励賞という名誉ある賞をいただき非常にうれしく思っている。照明デザイン業務に携わって9年目となるが、自分自身はまだ知識や経験の蓄積の時期である。また、照明デザインのとりまく環境もまだまだこれからと思うことが多い。インハウスの照明デザイナーとして活動を行っている私自身の思いを多少述べさせていただきたい。

2. 二つの“関係”

私は照明デザインを考えると、一番重要視しているのが“関係”というキーワードである。この関係という言葉には二つの意味があって、一つ目は天井・壁・床など他の空間エレメントとの関係であり、もう一つは一緒にプロジェクトに携わる人との関係である。

前者の（空間エレメントとの）関係は、以下の内容であると考え。照明デザインは照明単独で成立しないものであり、建築やランドスケープなど相手があってはじめて成り立つデザインである。周囲とのバランスによって、照明器具よりも照射面など光による効果が目立つほうがよい場合もあれば、シャンデリアのような輝度照明的な造形物が必要な場合もある。個々の照明器具ではなく、明るいと暗いところを創るなど空間として光を特徴づけることが重要である。照明デザインは、与えられたコンテキストに対して、照明によってどういう空間にしようかという意図が大切であると考えている。

後者の（一緒にプロジェクトに携わる人との）関係は、以下の内容と考える。デザインしたものを実現させるためには様々な人との関わりがある。また、デザインという共同作業を進めていく上で、建築家が照明をどのように考えているか、どれくらい重要視しているかによって照明デザイナーの関わり方が変わってくる。また、施主や施工業者などの理解度によっても変わってくる。照明デザインに限ったことではないが、何かものを創るということは多くの人々との折衝および協力と、そのコミュニケーションの中で実現していくものである。インハウスの照明デザイナーの一番重要な役割は、建築家と電気設備技術者の橋渡しをし、空間をより一層魅力的にすることと考える。現代建築は複雑に専門化された高度な技術レベルが要求されており、一昔前のように建築家が食器までデザインする時代でなくなっている。建築家や電気設備技術者とのコラボレーション（共同作業）が

重要と考える。

私がデザインする際に気を付けているキーワードをまとめてみた。

- 美しいこと、感動が与えられること
- 上品に目立つ（目立たせられる）こと
- どういう空間にするかという意図
- 個々の光に意味・存在価値があること
- 周囲とのバランス
- 時代（思想・技術など）を反映するものであること

3. パブリックスペースの照明デザイン

私は、エントランスホール、アトリウム、建築外構などパブリックスペースの照明デザインを担当する機会に恵まれた。今回受賞の対象となった5つのプロジェクトは偶然にもすべてこの部位であった。その内容について概略を紹介したい。

3.1 あいち健康の森 健康科学総合センター〈あいち健康プラザ〉

あいち健康の森 健康科学総合センターは、愛知県東浦町に建つ「健康プラザ」というテーマパーク性を持つ複合施設である。本施設のアトリウムは、大きなエントランス空間である。ここでの照明計画はその存在意味を照明によって明確化させ、デザイン展開したものである。

図1 アトリウム

あいち健康の森 健康科学総合センター
〈あいち健康プラザ〉

図2 ファサード
あいち健康の森 健康科学総合センター
〈あいち健康プラザ〉

図3 クリスタルガーデン内観
新川文化ホール 〈ミラージュホール〉

照明コンセプトは、周囲環境より“水の循環（流れ）”とした。建物に設けられた滝からカスケード、そして公園に設けられた“いのちの池”に水が流れていく様子を照明デザインにリンクさせた。天井の調光点滅可能な動きのある照明と水際の照明の演出により“生命（いのち）の永遠性”というメッセージを発信させた（図1）。テーマパーク的施設の意味合いから取り付けた天井のユニット照明は、照度を確保するとともに、一日のうつろいを示す巨大な光のオブジェとなるように考案したものである。

環境への配慮としては、極力白熱電球の使用は避け蛍光灯を使用し、省エネルギー化を図った。また、建物の外構は低位置照明によるきめ細かい照明手法と照明制御方法を採用した。これは、この地域がヒメボタルの生息地であることから、ホタルが成虫になる時期だけでも消灯できるようにという意図から採用したものである（図2）。

3.2 新川文化ホール 〈ミラージュホール〉

新川文化ホールは、富山県魚津市に建つ複合文化施設である。この施設は立山連峰の山並みをイメージしたデザインを、建築のインテリアや外観にとり入れている。ロビーでは、照明器具を感じさせずにこの山並みのデザインを効果的に浮かび上がらせた。建築内部と外構の緩衝空間であるクリスタルガーデンにおいては、クリスタルガーデンそのものが光の箱になり、外構照明の一部となるような計画とした。クリスタルガーデン内部もボール天井を効果的に浮かび上がらせ、床面に明暗のリズムをつくり楽しさを演出した（図3）。外構は、光源の色温度や照度によって建築内部から周辺環境へ、連続的な雰囲気と光のリズムを醸し出そうとした（図4）。

図4 外構の俯瞰
新川文化ホール 〈ミラージュホール〉

3.3 マイカル桑名

マイカル桑名は、三重県桑名市に建つ大型の複合商業施設である。この施設は敷地面積約110000m²、延床面積約153000m²という広域なショッピングタウンであることから、屋内・屋外に同じ照明モチーフを用い回遊性を高める計画とした（図5）。また、外壁のライトアップを行い、タウンセンターとして夜間も壮大に浮かび上がらせようとした。約30色に塗り分けられたアースカラーの外壁のデザインを、当時ほとんど例の無かった小型の高演色形メタルハライドランプ3000Kによって投光させた。また、ガーデンプラザは、ポール灯、ブラケット、フットライト、チューブライト、水中照明などにより、ヒューマンスケールの照明計画にしようとした（図6）。

図5 一番街アトリウム
マイカル桑名

図7 ファサード
愛知県児童総合センター

図6 三番街北面とガーデンプラザ
マイカル桑名

3.4 愛知県児童総合センター

愛知県児童総合センターは、愛知県長久手町に建つ大型の児童館である。この施設のコンセプトは子供の施設にふさわしいように、人にやさしく、また、スケールを感じさせる計画であった。エントランスブリッジでは、手すりのデザインに一体化させた間接照明型のポール灯により、子供の視点に合わせた光のデザインとした（図7）。アトリウムでは、投光器を用いた間接照明方式にて膜を照射し、子供たちを柔らかな光空間で包み込む雰囲気を実現した（図8）。夜のファサードは膜から漏れる光などにより、地域のシンボルとなるような印象的な夜景を構成することができた。

3.5 ハッピーネス・ヒル・幸田／幸田町民会館

ハッピーネス・ヒル・幸田は、愛知県幸田町のシンボル地区である。文化ゾーンとして幸田町民会館と幸田町立図書館が建設され、その周囲はロータリー、親水ゾーン、

図8 プレイアトリウム
愛知県児童総合センター

多目的広場であるセンタープラザ、思索の森などで構成されている。私は照明器具の色温度、配光およびデザインの区分を行いながらこの地区の景観形成を行うことを提案した。色温度は、周辺道路、駐車場を4300Kに、その他のゾーンは3000K近くに統一するように提案した。外構の広場の中心となるセンタープラザでは、床面に光だまりができるよう設計したブラケットのほか、4種類の器具によってうおいある光環境を創出している。また、ロータリー部分はモニュメントへのライトアップと滝の水中照明により、施設入口を印象づけようとした（図9）。町民会館ホワイエは高演色形メタルハライドランプのダウンライトにより照度を確保し、建築意匠に合

図9 ロータリーと町民会館ファサード
ハッピーネス・ヒル・幸田

図10 町民会館ホワイエ
ハッピーネス・ヒル・幸田／幸田町民会館

わせたペンダント、ブラケット、間接照明などにより、空間を印象づけた。ペンダントのパネルのデザインは、さくらのイメージを取り入れるためにピンクの亚克力球を挟み、さくら吹雪を表現した（図10）。

4. おわりに

3.で紹介させていただいたプロジェクトも、“関係”というものがすべて異なる。デザインの種類ばかりでなく、人との関係やプロジェクトの参画方法も異なる。あいち健康の森 健康科学総合センターでは、光のオブジェを多くの人の協力を得ながら創り上げたものである。一方、愛知県児童総合センターでは、照明デザインコンサルタントとして参画し、建築家のもつイメージを照明空間として実現させたものである。場合によっては、光の建築家として参画することもある（インハウスの照明デザイナーでは難しいが）。私はケースバイケースで異なっていて良いと考えている。

照明デザインにも、求められるものが変わってきている。空間の美しさや独創的なデザインの追求はもちろんだが、環境問題などを含む、広義の環境照明デザインの創造という観点で取り組んでいかななくてはならない。そのためにも、時代が求める照明の果たす役割をつかんだデザインの制作に努力し、研鑽を積み上げていきたい。地球にやさしく人々に感動を与える魅力的な光環境を提案していきたい。

今回の受賞に際して、照明学会の関係各位、プロジェクトの関係者並びに諸先輩の多大なるアドバイス、御指導を頂いた。この場を借りて感謝を申し上げたい。